

---

# フェアリーテイル 神の滅竜魔導士

神淨討魔

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

フェアリー・テイル 神の滅竜魔導士

### 【NZコード】

N8326Y

### 【作者名】

神淨討魔

### 【あらすじ】

リアルで死んでしまった少年が名前を変え、姿を変え、そして火、水、風、土、雷、氷、毒、天、光、闇等を操る滅竜魔導士になつてフェアリー・テイルに蘇る。そして、おなじみのキャラと大暴れします。多分…

## オリジナル主人公紹介

名前	ディオス・ドラグニル
名称	ディオス
年齢	16歳
性別	男
好きなもの	ギルドの仲間
嫌いなもの	ギルドの仲間を傷つける者
(特に女子供を傷つける奴は絶対に許さない)	

## 神の滅竜魔法

火、水、風、土、氷、雷、毒、天、光、闇

などいろいろな元素操る最強の滅竜魔導士。

## プロローグ

起き……

「ん……」

起き……

「わはは……もつもつと寝かして……」

起きなセー！

バチ！」——！

「へあつーー？」

オレは何者かに叩かれて起き上った。

「あれ……？ オレは……！」は……？」

オレは今、真っ暗闇の中に横になっていた。

「もつやつと起きたのねー！」

とすぐ横に小さな子供……らしき者がいた。

背中には羽が生えている。

なるほど、これは夢の中なんだと思い、もうひと眠り

しようと目を瞑つた時、また叩かれた。

「痛いなあ……人の頭を太鼓みたいに叩かないでよ……」

少し涙目になりながら反論する。

「まつたぐ、死人が寝るなんて聞いたことないわよ……」

「はいはい……好きだけおっしゃって……って、え?」

「今なんて……言つた……オレが……死んだ?」

「オ……オレは死んだ……のか?」

目の前に立つる羽の生えた少女に聞くと

「そうですよ~」

「とものすい」<sup>のんき</sup>へ呑氣に答えた。

いやいや、そんな呑氣に言われても……

その時、頭に痛みが走り、記憶の断片が見えてきた。

11月24日...

オレは普段通りに身支度をし、家を出で学校へと向かっていた…

通学路の途中、少し行き交う車の量が多い道路がある。

その道も普段通り、普通に歩いていた時…

「 キヤーーー！」

突然、悲鳴が聞こえた。

ビックリして声のした方を向くと

小学生くらいの子供が道路にいるのが見えた。

野球をしているのか、どうやら落として道路まで転がった

ボールを取らうとしているようだが、ここは交通量が少し多い所

車を見て、取るタイミングを計っているようだ。

そして、タイミングよく出てボールのところまで行き

ボールを取つて、戻るとした時、足を絡ませてこけてしまった。

しかも、運悪く、車が来ており、ブレーキをかけても間に合わない所だった。

その時、オレは自分の意思とは関係なく動いていた。

道路に飛び出し、体当たりをして少年を道路脇まで吹っ飛ばした。

しかし、無情にも車はもつよけられないといろまで迫つており

「（やべ・・・）」

と思つた時には、視界が一回転した。

チラリと車の影が目に映つた時、意外と小さく感じた…。

そして…そのまま暗闇へと変わり、オレは地面に叩きつけられる

痛みすら感じないまま、闇へと放り込まれた。

（回想終わり）

そうだ、思い出した…。

縁起でもなく道路に飛び出したバカな少年を助けようと

オレも道路に飛び出たんだ…。

そして、そのまま車に吹っ飛ばされ、命を落とした…。

その時、勝手に口が開いていた。

「……オレが助けた少年……無事だったのかな……」

その問いに答える者がすぐ横にいた。

「ええ、あの子は無事よ。その後、病院で検査を受けて、通常通り学校に行つたわ」

……やうか良かつた……って

「おわっ……」

オレは後ずさりした。

まさか答える者がいるとは思わなかつた。

「つわあ……ひどいなそんな反応……あんまりだよ……」

少女は泣きだしてしまつた。

あ~~~~~……「うこう」ときなんて言つたらいいかわからな~……

ので、適当に声をかけた。

「「1」ねん」「ねん~……まさか答えてくれる人いるとは思わなくて……その……」

オレって、やっぱバカか?

「うん！許す！」

許すんかい！

「あ、そういえば自己紹介してなかつたね」

そういえば、そうだな。

「私の名前はリリス。見ての通り、天使の一人よ  
そして、羽をピクピクと動かした。

「天使！？初めて見た！」

棒読みで言つた。

「エへへへへ…」

鈍感なのか何なのか、笑みをこぼしたリリス。

よかつた、気づかれてねえ。

そんな時、疑問が浮かんだ。

「じゃあ、リリス、聞きたいんだけどさ」

「ん？ なあに？」

やべえ… 意外と可愛い… じゃなくて！

「リリスは何でオレを起こしたんだ？」

当たり前の疑問だ。死んだなら、そのまま閻魔の所

行って、天国か地獄に行く。

オレの場合、地獄かもな…だから、そんなんじゃなくて！

その時、リリスが答えた。

「ああ～。そういうことね。理由は…」

理由は…

「私の暇つぶしよー」

「（ブツ）」

吹き出した。

「暇つぶしにだれかを蘇らせようと思つてたら、

偶然あなたが来たの。ここにね

『リリ』ところのまおそらく異界かなんかだろう。

とこりか、暇つぶしでそんなことを思いつくアンタがすげえ…

「じゃあ、オレは生き返れるのか?」

期待が少しふくらんだ。

「うん、やうだよ。あ、だけど、現実世界は無理だよ?」

え…なんで…

「だつて、あなたの死体はもう燃やされちゃつてるもん」

なんすと-----?

燃やすの早…?いや…もしかして…

「オレ…そんなに寝てたの…?」

恐る恐る聞いた。

「うん、現実世界だと一週間くらー」

ガ-----ン!

「つて事は何!?オレはそんなに飯食つてなかつたのか!?」

「ははは、そこなのーー?」

ツツ「まれた。

「寝ぼすけだし…食いしん坊だし…大丈夫かなあ!この子…」

「ん? 何か言つた?」

「「ひひん、 何も…」

なんかあやしい…が、 それはそれで

本題へ…

「じゅあ、 蘇らせるハビリティへ…」

「良い所に氣づいてくれましたーー。」

キコペーンハビリティを振り向き蘇らせるリリス。

「つまり、 現実世界はもつ無理だから、 別世界へあなたを

蘇らせる」としたの。 あなたの記憶もすべて新しくしてね

なんですよーー? それはまたまた…

「だから、 この中から行きたい世界を選んでね

とコロスが地面…ひしき所をたたくとまづの

選択肢のようなものが出た。

「これはおなじみだ。」

『ZONE PLACE』

『BLEACH』

ふむふむ。

『FAIRY TAIL』

！？？

オレの指はすぐさま『FAIRY TAIL』の文字を押していく。

「選ぶの早っ！？普通もつと考えない！？」

リリスにまたツッコまれた。

ツッコまれ役だな。

「FHアリーテイルはオレ、リアルで好きだったんだよ。

漫画も全巻買つたし、アニメも全部見た……」

そういえば、最終回見れなかつたな……。

つて、待てよ……FHアリーテイルの世界に行けば最終回とか

丸わかりなつちやうじょん！？というか体験できひつじょん！？！

「とりあえず、FHアリーテイルでいいんだね

「おう！」

「はい、了解。じゃあ、次は名前を決めよつか」

と、また地面にしき所を叩いたリリス。

また文字が浮かんできた。

『ライ』

『シユウ』

『ディオス』

迷わずディオスを押した。

「だから、選ぶのは『「いのち』』……」

ツツ「みを途中で止められた。

「ディオスつて、響き良こじやん。だから『』」

理由を述べた。

「今から、オレは『ディオス・ドラグールだ!』

「えー? なんでドラグール付いてんのー?」

「ナツとオレは兄弟つてこじたかったから

「なるほどですね」

「おい、口調おかしくなつてんだ。

「でも、ナッシェーとは双子の兄つてことにしておあがしまる」

「おお、助かるぜ…。

「顔はナッシェーとほとんど同じで、髪形も同じで色は向色がこいです  
か？」

「黒」

ただ単にブラックが好きなだけ。

「はい、完了…」これ鏡です」

と鏡をくれた。どうから出した!?

鏡の中の自分を見ると、一瞬ナッシーに見間違えた。

それほどよく似ていた。髪色さえ違わなければ、

ナッシー全く一緒に

「では、服装なども一緒にしますか?」

「ああ。あ、マフラーの部分は黒いリングみたいのにして。

あとフードの付いてるマントも付けて」

「良いんですけど…なぜ？」

「最初は顔をバラさずに、後からバラす作戦だ！」

ふざけた作戦だな… つて声までナツと一緒にだ…?

「あ、もう」

■ ■ ■

とその時、服装まで変わった。完璧にナツそつくりだ。

そこで後ろで立たん工があつた。やのさん工を温めに用ひ、

完全に体が隠れるよ」にした

そしてフードを被つてみた。すると、相手からほ

ほとんど口しか見えない様な状態になつた。

不審者だな……。

「ところで、魔法は何使えるんだ？」

フェアリー テイルに行くんだつたら魔法が無きや意味無い。

「はい。神の滅竜魔法を付けました！」

神！？つまり神竜しんりゅうってこと！？

「神竜は火、水、風、土、雷、氷、毒、天、光、闇等のさまざまな元素を含みます。なので、ほとんどの魔法はあなたにはほとんど効きません」

まさに最強じやん！

「いいのか、そこまでしてもらつて…」

「ええ。いいですよ。では準備はこれくらいでよろしいですかね」

「ああ、ありがとうございます」

短くお礼を言つた。

「どういたしまして。それではいってらつしゃい、

『フェアリー妖精テイルの尻尾』の世界へ！」

リリスが最後に手を振つた。

その途端、オレの視界がまた闇に包まれた。

さあーフェアリーテイルの世界へ出発だ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8326y/>

フェアリーテイル 神の滅竜魔導士

2011年11月24日22時55分発行